

◆活動団体

団体名：青石畳通り活性化委員会・松江観光協会美保関町支部

連絡先：TEL 0852-55-5956 メール：rekimachi@city.matsue.lg.jp

URL：https://www.mihonoseki-kankou.jp/spot/1007/

◆活動内容

●グリーンスローモビリティ実証実験

- ・松江観光協会美保関町支部前から青石畳通りを通過し、美保関灯台へ向かう新たな旅客運送として『グリーンスローモビリティ』の導入に向けた実証実験が10月と11月に1週間ずつ行われた。



●もち花まつり

- ・旧暦正月期間に閑散期対策として実施して10回目(1月29日～2月5日)。
- ・美保関に古くから伝わる正月飾り「もち花飾り(クロモジに白い餅をつけた飾り物)」の風習を後世に残していくため、青石畳通り周辺にて、この飾り付けを中心に「祭り」として風習を復活し、新春の美保関の街並みを彩り、イメージアップに貢献した。
- ・コロナ禍の影響は落ち着き、観光客も回復傾向にあった。「もち花飾り製作」のほか、各観光関連施設にて「もち花茶」や「もち花クッキー」の販売のほか、振る舞い、香りの演出などの“おもてなし”をおこなった。
- ・祭り期間中、もち花飾り作り体験を観光客向けに実施したが参加者は3名と雪が降る日が多く少なかった(昨年15名)。
- ・もち花の木(クロモジ)から取れる成分が、インフルエンザ予防にも効果があると知られるようになり、「もち花茶」を求めてリピーターが祭期間中に来訪するようになった。



●青石畳通りガイド養成

- ・青石畳通りの成り立ちや歴史・神話及び美保神社や美保関灯台を含めた観光ガイドの育成を継続中。またジオパーク活動との連携による地質学的なガイド(敷石などの話)もできるように教育を開始。現在5名が対応可能。(認定ジオガイドは1名)
- ・一方で神社好きの女性が集う任意団体「社♡ガール」とも連携し、情報交換を行うなど、相互間でガイド要請の協力も継続的に行った。

## R 6 年度

### ●青石畳通りライトアップ～陰翳礼讃・青の共演～

- ・平成 27 年より青石畳通りを引き立てるためにライトアップを企画、令和 6 年も美保関旅館組合と協力し、LED 照明から蠟燭へ戻し、9 月～10 月に展示を行った。広瀬染め(藍染)の布に五本松節の歌詞や美保関を題材にした俳句・短歌などを墨で書き上げた竹細工の灯籠で通りを照らすことで、灯籠の光と青石畳通りの碧(あお)・広瀬染めの藍(あお)を陰翳礼讃青の共演と称し、歴史ある街並みを演出。夜景を目的とした誘客に寄与した。
- ・今年度はライトアップに合わせてフォトコンテストを開催した。



- ・風情ある街づくりの一環として、美術制作合宿によりご縁ができた「松江地区高校美術部生徒(10 校)」へ 4 年前より製作を依頼。青石畳通りの景観に合わせた色とデザインで製作された風鈴 86 基を設置した(7 月 22 日～9 月 2 日)。

猛暑の中、通りを抜ける風で、爽やかな音色を奏でる風鈴に、目と耳で癒される空間を演出。また来訪者の中で、撮った写真を SNS 等でアップするなど、この景観を自発的に紹介する人も多く見受けられた。



●令和 6 年度のその他の取り組み

- ・ 5 月 26 日(日)に「えびす・だいこく 100 km マラソン大会」が開催された。当日は早朝 5:30 に美保神社を出発し、全国から集まった 1,556 人がゴールの出雲大社を目指して、美保関町内を駆け抜けた。気温が高く、脱水症状や熱中症により、リタイアする選手が多く、完走率は個人 52.5%、全体で 82.8%と過酷な大会となった。しかし、参加された選手やボランティアスタッフ、関係者の皆様の協力によって大きなトラブルもなく大会を終えることができた。



- ・ 7 月 15 日(月・海の日)に『全日本海上綱引き選手権大会』が北浦海水浴場で開催された。

今年も多くの選手が参加し 64 チーム約 480 名が思い思いのパフォーマンスで熱戦を繰り広げた。梅雨が明け、大会当日は途中で雨が降りましたが、多くの方々にご協力いただき、無事大会を終えることができた。



- ・ 5 月のゴールデンウィークにつつじまつりを開催、フォトコンテスト、俳句川柳コンテスト、クイズラリーが行われた。

・ フォトコンテスト

最優秀作品 shota.n.m 様

優秀作品 pingshan445 様

同 pichm24 様



最優秀作品 shota.n.m 様

・ 俳句川柳コンテスト

最優秀賞 美保関 飛火の如く 躑躅咲く

優秀賞 美保関 躑躅の空に 鳶の笛

同 つつじ咲き 笑顔ほころぶ 恵比須さん

- ・ クイズラリーにつきましては、応募者の中から抽選で 5 名の方選出し、フォトコンテストや俳句川柳コンテスト受賞者と共に特産品を送った。

・ 個人型旅行者をターゲットに、出雲大社と美保神社の両社の参拝を促す「えびす・だいこく両参り」企画を展開。「旅行雑誌るるぶ」への掲載や自社 HP での積極的な宣伝を継続して行った。コロナ禍が落ち着き、個人旅行者が飛躍的に増加し、バスツアーも回復したことにより令和 6 年の美保神社年間参拝者数が過去 10 年間で最高の 78 万人を超えた。